

第2 地域療育センター運営事業

地域療育センターは、横浜市が策定した「障害児地域総合通園施設構想」により設置された地域における療育の中核施設として、障害のある小学生までの児童と家族が、地域の中で安心して生活できるよう、関係機関と連携しながら運営を行いました。

従来からの地域療育センターの枠組みに捉われず、利用者や関係機関のニーズを的確に把握することで、地域療育センターとしての新たなサービスを構築し、満足度の向上に努めるとともに、迅速に質の高いサービスが受けられるよう、ライフステージに沿った、谷間のないサービス提供を行いました。

今年度、地域療育センター全体として重点を置き、実施、検討した項目は、以下の2項目です。

- ◇ 年々増加している利用申込みに適切な支援を行うため、ソーシャルワーカーの面接を最初の電話相談から概ね平均2週間程度に実施し、子育てに関する不安やセンター利用の見通し等についてアドバイスをを行い、児童の状況を把握したうえで、必要に応じ、心理士による面接、親子で参加できる広場事業の実施等「相談から始まるサービス」の充実に努めました。
- ◇ 年々変化し、多様化している利用ニーズに対応し谷間のないサービス展開を図るため、児童と家族の状況に応じた多様なサービスの提供、地域での適応困難な児童に対する高頻度療育の実施、これからの地域支援のあり方等について、一部30年度からの実施も見据え、法人全体で共有、検討を行いました。

センター名	主な担当区
戸塚センター(児童発達支援事業所「ぴーす東戸塚」を含む)	戸塚・泉
北部センター(児童発達支援事業所「ぴーす中川」を含む)	緑・都筑
西部センター(児童発達支援事業所「ぴーす鶴ヶ峰」を含む)	保土ヶ谷・旭・瀬谷
港南センター(児童発達支援事業所「ぴーす港南」を含む)	港南・栄

また、各地域療育センターにおいて重点を置き実施した項目は、以下のとおりです。

- ◇ 戸塚センターでは、広場事業について、保護者同士の緩やかなつながりを促すグループを設置するとともに、診療所における外来グループについて、保護者のニーズに応えられるよう整備をしました。これらを通じて、保護者に障害の理解をより深めてもらうことが可能となりました。
- ◇ 北部センターでは、センターを取り巻く環境が大きく変化する中、集団療育体制の見直しを行いました。さまざまな側面から適切な運営方法の検討を行い、30年度から療育主体と地域主体のクラスを編成し、地域主体のクラスは集団療育と地域支援を組み合わせた新たなサービスとして開始することとしました。

- ◇ 西部センターでは、センターを取り巻く環境が大きく変化する中、地域療育センターの本来的な役割を、地域での集団利用が困難な中重度発達障害児に対する高頻度集団療育に置くとともに、高機能及び軽度発達障害児に対する地域主体の支援については、適切な介入時期や頻度等について継続して検討します。
- ◇ 港南センターでは、他センターに先行して、多様化している利用ニーズに対応した谷間のないサービス展開を図るために、新規事業として月2回登園を中心としたプログラムを試行実施しました。また、家庭の事情で集団療育を利用できない児童に対して、保育所等訪問支援事業を試行しました。(戸塚、西部でも試行)

1 相 談

- ◇ 相談から始まるサービスの充実として、従来は初診前までのサービスであった広場事業について、各センターの工夫により、診察後、継続したサービスが提供される前まで利用できるグループを設置し、谷間のないサービスの提供に努めました。
- ◇ 北部センターでは、広場事業を原則毎週実施し、保護者が気軽にソーシャルワーカー、心理士、保育士等の職員に相談できる体制を強化しました。
- ◇ 西部センターでは、5歳児の新規申込みが他センターに比べて多いため、就学支援を目的とした5歳児広場事業を試行しました。

(実績：センター毎の申込総数) ※()内は昨年度

戸 塚 セ ン タ ー	636 人 (586 人)
北 部 セ ン タ ー	784 人 (665 人)
西 部 セ ン タ ー	779 人 (723 人)
港 南 セ ン タ ー	504 人 (497 人)
合 計	2,703 人(2,471 人)

(実績：4センターの合計) ※()内は昨年度

利用申込み数 (精神系未就学)	1,668 人(1,451 人)
〃 (精神系学齢)	563 人 (528 人)
〃 (肢体系)	128 人 (129 人)
〃 (難聴・言語系)	344 人 (363 人)
合 計	2,703 人(2,471 人)

(実績：利用申込み数の推移 (精神系未就学))

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
891 人	968 人	1,293 人	1,348 人	1,426 人	1,451 人	1,668 人

2 診 療 ・ 訓 練

- ◇ センターの診療部門として、必要な診断・評価・訓練・検査等を行いました。

- ◇ 診療申込み数の増加に伴い、初診枠の増設等、適切な初診枠の確保に努めるとともに、再診を含めた診療枠全体のバランスを考慮しながら、柔軟な枠設定に努めました。西部センターでは診療枠の効率的な運用のために処方外来を設けました。
- ◇ 診療所における、一定期間継続した集団の場で実施される療育について、目的、対象年齢等、利用児の状況に応じたグループを実施するとともに、内容の充実に努めました。
- ◇ 戸塚センターでは、肢体系学齢児が主体的に参加でき達成感を得られる活動を介して、他の児童との交流や保護者同士の情報交換の機会を提供するためのプログラムを実施しました。また、就業している保護者でも参加しやすい月1回開催のグループを実施しました。
- ◇ 港南センターで実施している、利用開始が遅かった高機能児に対する年長児就学支援プログラムは、年々利用児が増加し、有効な集団サービスとして定着しています。

(実績：4センターの合計)

※()内は昨年度

初診実施数	2,255 人 (2,139 人)
再診実施数	9,214 人 (9,833 人)
各種訓練(理学、作業、言語、心理療法)	37,446 件(38,299 件)
外来集団療育利用児数	520 人 (533 人)

3 集団療育

(1) 医療型児童発達支援 (戸塚・北部・西部：定員40人、港南：定員30人)

- ◇ 医療ケアが必要な児童が安心して楽しく療育に参加できるよう、担任、看護師等が連携して環境やプログラムの工夫を行いました。
- ◇ 重症心身障害児や要医療重症児から精神運動発達遅滞児(PMR)まで、多様な障害像の児童が少人数で利用するクラスについては、プログラムの充実や職種間の連携を意識した運営を行いました。
- ◇ 北部センターでは、地域の健常児集団では交流が困難な児童に対して、近隣の公立保育園と連携した交流保育を実施しました。
- ◇ 西部センターでは、園庭のローラー滑り台の変更、屋内用ブランコの設置等、運動面の障害が重い児童でも楽しめるよう、療育内容の工夫を行うとともに、園外プログラムでは、形態食対応等を事前にレストランと調整し、フランス料理のフルコースを楽しむ等経験の幅を広げました。

(実績)

※()内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚センター	10人(17人)	7人(11人)	17人(28人)
北部センター	12人(15人)	8人(5人)	20人(20人)
西部センター	9人(12人)	9人(5人)	18人(17人)
港南センター	15人(16人)	9人(7人)	24人(23人)

(2) 児童発達支援（戸塚・北部・西部：定員 50 人、港南：定員 60 人）

- ◇ 児童の状態像の変化、多様化に対応するため、従来からの枠組みに捉われない形での療育サービスの充実を図り、特に、週 1 回程度の低頻度療育でも保護者が児童の理解を深められるための工夫やプログラムの充実を図りました。
- ◇ 保護者に対する支援として、家族参観、保護者教室、父親教室、保護者懇談等を実施しました。
- ◇ 卒園児に対する支援として、卒園児交流会や卒園児フォロープログラム、卒園児保護者の集い等、各センターの状況に合わせた支援を行いました。
- ◇ 戸塚センターでは、利用希望児の増加に伴い、1 クラスで週 2 回、週 2 回、週 1 回の 3 グループ 26 人を担当することになりましたが、グループ毎でリーダーを決めて療育を行い、安定した療育の提供をしました。
- ◇ 港南センターでは、保護者支援として夜間講座を実施し、また、卒園児支援として、特別支援学校を利用している保護者の会を新たに実施しました(医療型児童発達支援と合同実施)。

(実績)

※()内は昨年度

セ ン タ ー 名	継続利用児	新規利用児	合計
戸 塚 セ ン タ ー	50 人(32 人)	52 人(61 人)	102 人(93 人)
北 部 セ ン タ ー	56 人(63 人)	44 人(44 人)	100 人(106 人)
西 部 セ ン タ ー	48 人(47 人)	43 人(45 人)	91 人(92 人)
港 南 セ ン タ ー	38 人(53 人)	47 人(37 人)	85 人(90 人)

(3) 児童発達支援事業所「ぴーす」（戸塚・北部・西部・港南：定員 48 人）

- ◇ 地域の保育所・幼稚園の併行利用児がほとんどであることから、園への訪問を実施するとともに、園の先生にぴーすでの児童の様子を見てもらう療育参観を実施し、園や保護者のニーズを的確に応えられるよう連携を強化しました。
- ◇ 卒園児に対する支援として、施設開放、同窓会、3 年生以上を対象としたクラブ体験、4 年生以上を対象としたクラブ、保護者会等のプログラムを実施するとともに、西部センターでは、放課後デイサービスとの違いを明確にし、地域療育センターで行うべき内容の整理を開始しました。
- ◇ 西部センター(ぴーす鶴ヶ峰)では、新たに設置したボルタリングを使ったプログラムの実施等、ラポールと連携をしながら運動プログラムの強化を図りました。

(実績)

※()内は昨年度

セ ン タ ー 名	継続利用児	新規利用児	合計
戸 塚 (ぴーす東戸塚)	9 人(13 人)	39 人(38 人)	48 人(51 人)
北 部 (ぴーす中川)	14 人(15 人)	37 人(39 人)	51 人(54 人)
西 部 (ぴーす鶴ヶ峰)	31 人(13 人)	45 人(41 人)	76 人(54 人)
港 南 (ぴーす港南)	12 人(15 人)	40 人(33 人)	52 人(51 人)

4 地域支援

- ◇ 区福祉保健センターと合同で実施する療育相談及び保育所・幼稚園、地域訓練会、小学校等関係機関を訪問して行う関係機関技術支援等を実施しました。近年は、地域の子育て支援拠点や地域ケアプラザ等、地域の支援者への支援が多くなっています。地域の支援者に対する支援は今後ますます重要になると考えられることから、今後もより有効な連携について継続して検討します。
- ◇ 担当区域の保育所・幼稚園等、関係機関の保育士・幼稚園教諭等を対象に、障害児及びその保育・療育に関する理解を深め、専門性の向上を図ることを目的とした療育セミナーを開催したほか、センターでの支援の工夫を見学してもらおうオープンデイの実施等、センターの状況に即した支援を実施しました。
- ◇ 小学校教員を対象とした発達障害児等への理解と対応について、コンサルテーションや研修の実施といった技術支援を行う学校支援事業を継続して実施しました。

(0歳4か月療育相談実績)

※()内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	12回(12回)	63人(55人)	5人(5人)
北部センター	10回(12回)	77人(105人)	8人(9人)
西部センター	12回(12回)	147人(136人)	9人(5人)
港南センター	12回(12回)	67人(78人)	3人(4人)

(1歳6か月療育相談実績)

※()内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	4回(3回)	5人(7人)	2人(0人)
北部センター	7回(7回)	16人(21人)	9人(6人)
西部センター	12回(12回)	47人(45人)	44人(34人)
港南センター	3回(7回)	6人(12人)	2人(6人)

(関係機関技術支援実績)

※()内は昨年度

センター名	機関数・回数
戸塚センター	100か所・140回(昨年度100か所・153回)
北部センター	147か所・238回(昨年度120か所・192回)
西部センター	128か所・188回(昨年度136か所・206回)
港南センター	104か所・158回(昨年度94か所・165回)

(学校支援事業実績)

※()内は昨年度

センター名	学校数・回数
戸塚センター	29校・46回(22校・46回)
北部センター	32校・82回(30校・68回)
西部センター	16校・17回(31校・44回)
港南センター	29校・56回(25校・52回)